

第31回 口腔機能って何だろう？

＝「認知症の方」の食事「困りごと」と対処法について＝

(その6)

北九州在宅医療・介護塾
塾長 久保 哲郎

今まで、認知症の方に対する「食べさせるコツ」についてご紹介しましたが、認知症や、高齢によって感覚⇒認知⇒運動（口腔）の機能低下などによって、例えば、食事を出しても食べてくれないとか、食べた物を吐き出すとなど、多くの「困りごと」が生じてきます。その理由を本人に尋ねても、ご本人にはそれなりの理由があるのかもしれませんが、キチンと回答してくれるとは限りません。

今月からは、「食事で困っていること」をテーマにして、その対応策についてご紹介します。

Q-1：食べ物を前にして食べない。

- 食べ物だとわからないのかもしれませんが、手続き記憶が残っている場合には、料理を作るところを見せたり、一緒に盛り付けをしたりすることで、

やり慣れたことは出来ることがあります。また、今まで日常的に美味しく食べていた料理を出してみてもどうでしょうか？そして、「白いごはん」には、茶碗の内側の色を濃いめの色にしたりするなど器の色や形を工夫して、ハッキリと料理が分かるようにしてみてもどうでしょうか？

場合によっては、目の前で食事を摂る様子を見せてはどうでしょうか？このように、視覚的に、あるいは行動的に「食べ物」であることを認識できるように働きかけることがこのような場合良いといわれていますが、ご本人が「食べ物」として認識していない場合には、料理を口の中に入れることは禁忌とされています！

(参考：認知症「食事の困った！」に応えます)

「白ごはん」と白地茶碗



器の色や柄のせいで料理が
区別できないかも。

「白ごはん」と黒地茶碗



無地で料理が映える色
の器にしましょう。